

モモ優良台木「ひだ国府紅しだれ」は モモ若木の枯死障害を受けにくい

農業総合センター山間地帯特産指導所

「ひだ国府紅しだれ」は、岐阜県で育成されたモモ台木品種で、その実生台木は本県モモ主要品種「あかつき」の若木の枯死障害軽減に有効です。また、慣行台木品種の「おはつもも」等と比較して、モモ「あかつき」の果実収量は同等～やや多く、果実品質は同等です。

「ひだ国府紅しだれ」台木による枯死障害軽減効果

「ひだ国府紅しだれ」の実生台木に接木した本県モモ主要品種「あかつき」は、5年生まで枯死がなく、他の台木と比較して主幹部障害の発生程度も軽減しました(表1、図1)。

表1 台木の違いが「あかつき」の主幹部障害の発生と枯死樹数に及ぼす影響¹⁾

台木品種・系統名 ²⁾	障害程度 ³⁾ (6樹中該当樹数)						
	0	1	2	3	4	5	6(枯死)
ひだ国府紅しだれ	0	2	1	2	1	0	0
長野野生桃	0	2	0	0	0	0	4
筑波4号	0	0	1	0	1	2	2
筑波5号	0	0	1	2	0	1	2
おはつもも(慣行)	0	0	0	0	0	4	2

1) 調査樹齢は、5年生

2) 平成21年9月に芽接ぎ、平成22年3月に列間7m×樹間3mで定植し、2本主枝の開心自然形で管理

3) 障害程度：岐阜県の障害程度指数を参考にし、主幹部障害を、0：無、1：表皮のみ亀裂、2：皮層部亀裂、3：被害部位の長さが10cm未満、4：同30cm未満、5：同30cm以上、6：皮層部、木質部が褐変し枯死とした主幹部障害を0-6の7段階で評価



図1 5年生「あかつき」の主幹部

左：台木「ひだ国府紅しだれ」
右：台木「おはつもも」

「ひだ国府紅しだれ」台木に接いだ「あかつき」の生育と収量・果実品質

5年生樹の樹勢は、慣行台木品種「おはつもも」と同様に中程度で、幹周は「おはつもも」よりやや短く幹がやや細くなりました(表2)。

また、主幹部障害の程度が軽いため、1樹あたりの累積収量は、「おはつもも」より多くなりました。1果重、果実糖度、果肉硬度などの果実品質は、「おはつもも」や他の台木と同等です(表2、図2)。

表2 台木の違いが「あかつき」の生育・収量・果実品質に及ぼす影響¹⁾

台木品種・系統名 ²⁾	樹勢	幹周長 (cm)	累積収量 (kg/樹)	1果重 (g)	果実糖度 (Brix%)	果肉硬度 (kg)
ひだ国府紅しだれ	中	41.1	54.0	335	13.5	2.1
長野野生桃	中	45.0	37.4	296	12.7	2.1
筑波4号	やや弱	40.5	50.5	330	12.6	2.2
筑波5号	やや強	43.9	50.4	324	12.3	2.0
おはつもも(慣行)	中	44.8	37.9	314	12.7	2.0

1) 表中の値は、5年生樹までの生存樹の年次間平均値

(幹周長は5年生時の値、累積収量は生存樹1樹あたりの3～5年生の合計収量の平均値)

成果活用上の留意点

本成果は、連作ほ場において実生台木を利用した結果です。

「あかつき」以外のモモ穂木品種での試験は未実施です。

「ひだ国府紅しだれ」は、台木又は穂木品種を接いだ苗木の状態です。ただし、まだ品種は一部に限られています。



図2 「ひだ国府紅しだれ」台木に接いだ「あかつき」の果実